

連載

# 働く女性 たちからの メッセージ

いきいき  
仕事も生活も

会員企業で活躍されている女性社員の方々のキャリア、  
働く上で心がけていること、仕事と生活の両立の知恵などを  
ご紹介いたします。  
企業の女性活躍推進のヒントが見つかるかも知れません。

小関 明子さん

日東ベスト株式会社  
天童工場・品質管理課長

山形県



1985年4月入社  
生産管理システム構築のプロ  
ジェクトや品質ISO推進員などを  
経て、2010年より品質管理課長。  
1男1女の母。

## ●お互い様が、自然な企業風土に

弊社は、主に業務用冷凍食品の製造と販売をしてい  
ます。

私が所属する製造部門は女性が多く、また山形県は共  
稼ぎや同居率も高いことから、育児や介護と仕事を両立  
しながら活躍している女性が大勢います。

私も、そんな上司や同僚の理解と協力で恵まれ、育児  
と介護休業の制度を利用しました。

子育て中、何かと休みが必要となり、仕事との両立に  
悩んでいた頃、上司から「今は周囲の人に助けてもらって、  
子供が手を離れたら受けた恩を後輩に返せばいいんだか  
ら、お互い様だよ。」と励ましていただき、気持ち轻轻松  
りました。

現在は、その時の思いを忘れ  
ることなく、管理職としての  
責任と自覚、これまでの感謝と  
経験を糧として部下育成にあ  
たっています。また、業務以外  
でも後輩達の仕事と生活の両  
立の支えとなり、女性がイキイ  
キと働きたい企業風土が絶  
えないように、会社貢献に努め  
ています。



鬼頭 利加さん

オムロン株式会社  
オムロン パーソナル株式会社  
第一シニアードサービスクループ  
グループマネージャー

京都府



1998年に中途採用で入社。  
人材派遣事業に12年間携わり、  
2010年度よりグループ間接業務の  
受託事業を担当。  
2011年度より現職。

## ●「チームオムロン」の二員として、しなやかに

オムロングループの当社は、人材派遣や人事・給与サー  
ビス関連事業を行っています。社員の7割以上を女性が  
占めており、管理職の約半数が女性です。女性の上司や  
同僚に恵まれ、自然体で仕事を続けてきました。

しかし、昨年度は転機の年となりました。初めての部  
門への異動、40名を超えるメンバーのマネジメントを任  
されるも、うまくいかないことの連続でした。そんな中、  
グループ会社が集まる1年間のビジネスリーダー研修を  
受講させていただきました。各社の男性社員と切磋琢磨  
する機会を得て、自分が井の中の蛙であることを痛感し  
ましたが、広い視野と高い視点を持つことを実践的に学  
ぶこともできました。苦勞もあり  
ましたが、成長できた一年だっ  
たと思います。

折しもオムロングループは  
2020年に向けて長期計画の  
スタートを切ったところです。新  
たな価値の創造に向けて、私も  
成長の一つ一つを確かめながら、  
チャレンジしていきたいと思いま  
す。女性らしく、しなやかに。



内麻 良恵さん

福井県民生活協同組合  
管理部 次長

福井県



1989年入協。  
経理課、共済課を経て現職。

## ●職員が元気になるための環境整備に向けて

当組合は組合員組織であり、その過半数は女性で構成され  
ています。

そのような理由もあり、かねてより両立支援の取組を積極  
的に実施しています。

両立支援を進めるメリットは大きく分けて二つあると思い  
ます。一つ目には、組織にとってのメリットです。団塊の世代の  
退職、少子・高齢化等を背景とした労働力不足が進む中、企  
業イメージを向上させることにより、優秀な人材が確保でき  
ること。また、内部では、人材の定着化が図られ人財育成が  
進むことなど、です。

二つ目は、職員にとってのメリットです。働きやすい職場  
環境の整備が進むことで、仕事と家庭の両立がしやすくなり、  
長期的視点に立った自分の将来像（キャリアプラン）を描く  
ことができます。そのことは、モチベーションアップに繋がり、  
自分を取り巻く環境にあわせ、自分の能力を職場の中で十二  
分に発揮することが出来ます。

といっても、まだまだ課題も多くあ  
ります。「くるみんの会」（両立支援制  
度取得者の会）や、職員満足度調査、  
労働条件説明会などで職員の声を聴  
き、毎年課題を設定しながら両立し  
やすい環境整備に努めています。



伊藤 鼓月さん

東京都

三井物産株式会社  
コンシューマーサービス事業本部  
都市開発事業部資産運用・開発事業室  
マネージャー



### ● 更なる成長を目指して

今年の4月で入社16年目になりました。入社時は先輩方の仕事ぶりに圧倒され憧れるばかりで自分はどこでやっていただけ返ってくるのかと不安でしたが、先輩からの「真剣に向き合っただけ返ってくる」の言葉を大切に目の前の仕事ひとつひとつに真面目に一生懸命取り組んできました。

上司・先輩からの指示に対応するだけでも必死だった私が、2006年には会社の公募制度を活用して自ら不動産事業部門へ異動し、今では新たなビジネスの創出に向けてやりがいを感じる毎日です。仕事では難しい場面に遭遇することはしばしば、悩み考えてしまうこと、自分の力不足に悔しい思いをすることもあり、また、残業が続き体力的に厳しさを感じる時もあります。ですが、仕事を通じて得た成長は私にとってかけがえのないものです。2008年には娘を授かり、仕事と子育ての両立で毎日があっという間ですが、娘にとって憧れの女性となることのできるようこれからも挑戦し続けたいです。



1996年入社。法務部で国内案件を担当した後、営業部門へ異動。通信プラントの輸出、情報産業部門の戦略立案を担当した後、社内の公募制度を活用して都市開発事業部へ異動し、現在は国内のオフィスビル開発・物流施設開発を担当。